

推薦する取り組み

園館名

ボルネオゾウふくちゃんの治療

福山市立動物園

推薦理由

結核に罹患した日本でただ1頭のボルネオゾウのふくちゃんの治療のために日々努力し、工夫を重ねる獣医さん、担当飼育員さん、広報の方、園全体の取り組みに感動しました。投薬の工夫や運動と日光浴のために運動場で過ごす時間を楽しく過ごす工夫とblogなどによる細やかな情報発信は受賞に値すると思います。



推薦する取り組み

園館名

みんなで応援！ボルネオゾウの結核治療

福山市立動物園

推薦理由

福山市動物園で飼育されている、日本でただ一頭のボルネオゾウ「ふくちゃん」は、現在、結核の治療中で、完治に向けて園の方々が一丸となり頑張られています。



## 推薦する取り組み

## 園館名

結核治療中！ボルネオゾウのふくちゃんを全力でサポート

福山市立動物園

日本で唯一のボルネオゾウのふくちゃんが結核を発病。

職員の皆様の献身的な治療と「絶対にふくちゃん助ける！という熱意が、福山市・ファンの皆様の心を動かし「ふくちゃん応援隊」が結成され、すぐに一致団結でのサポートが始まりました。

市は治療費を予算に組み込み、

ファンから集まった寄付金で、熱帯ボルネオ産まれのおふくちゃんの為にジェットヒーターを購入。

園では少しでもふくちゃんが快適に暮らせるよう、工夫しての作成した消防ホースを使ってのおやつタイムや、ふくちゃんの一人遊び用のおもちゃやタイヤも。

砂浴び大好きなふくちゃんの為に定期的にふかふかの砂を入れてあげて、仲間になって砂かけ遊び。

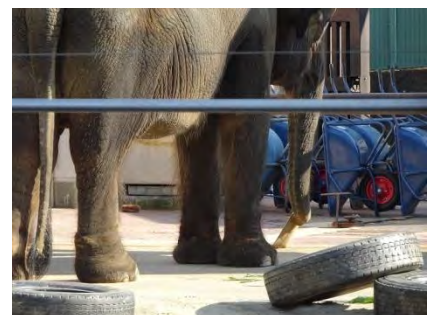
ふくちゃんのために、数々のエンリッチメントの工夫がされています。

孤児のおふくちゃんは、とても精神的に不安定。

時には飼育員さんが仲間となって、怯え不安がるふくちゃんに寄り添うことも。

飼育員さんが一番のエンリッチメントなのかもしれないと胸が熱くなる、本当に素晴らしい園です。

推薦理由



推薦する取り組み	園館名
市民を巻き込む、ボルネオゾウの科学的かつ献身的なウェルフェア向上に向けた取り組み～これまで・いま・これから～	福山市立動物園

推薦理由	<p>福山市立動物園では、単独飼育個体であるボルネオゾウ(アジアゾウ)の QOL 向上を目的に、2010 年度より行われたエンリッチメント研究、また野生ボルネオゾウの保護活動および行動観察調査、加えて 2016 年度には”結核”の発病がわかり、日本で初めてゾウの結核治療を開始し、飼育現場はもちろん組織的な対応、および工法を通じて市民活動をも取り込んだ取り組みがなされていることから、本年度のエンリッチメント大賞に自薦いたします。推薦理由の詳細については別紙にお示しいたします。</p>
------	---

○年次的に行なう SPIDER モデルに沿った取り組みおよびエンリッチメント研究 ※SPIDER モデルとは、目標設定 (Setting Goals)、計画立案 (Planning)、実行 (Implementing)、効果の記述 (Documenting)、評価 (Evaluating)、再調整 (Re-Adjusting) の各頭文字を取っています。環境エンリッチメントを実施しようとする場合、S→P→I→D→E→R の順にステップを踏んで行き、また目標設定に戻って、より良い環境エンリッチメントを再考していきます。したがって環境エンリッチメントは、ただ実施するのではなく、はっきりとした目標をまず設定すること、実施した後に効果を記述して評価し、その結果をフィードバックすることが重要と言えます (SHAPE-Japan の HP 参照)。なお、エンリッチメントは創意工夫を行なったままでは完成とは言えず、その効果を評価し、次につなげる事で完成と言えると思います。つまり、動物が『楽しそう』ではなく、『楽しい』を科学的に評価して初めてエンリッチメントと言えるのかもしれない。

・2010 年度より、まず現状の飼育個体の行動発現割合を行動学的に調査した上で、先行研究として言われている、ゾウの足の負担を軽減するために推奨される土の耕耘が、飼育個体であるゾウ『ふくちゃん』の行動におよぼす影響を調査した。結果、土の耕耘は土を軟化させるが、飼育個体の行動に大きく影響をおよぼさないことが明らかとなった。なお、この調査では異常行動・常同行動である回遊癖(同じところをグルグル回る行動)が展示時中の約 6 割観察され、今後の改善対象となった。(萩原ら、2011. 日本動物心理学会, 日本動物行動学会, 応用動物行動学会, 日本家畜管理学会合同大会, 口頭発表)

・回遊癖が約 6 割観察されたことから、今後の目標を回遊癖減少として、2011 年度には固定していない自由に動かすことができる廃タイヤを提示し、行動学的に調査した。廃タイヤの提示は、回遊癖の発現割合を約 20%~25%減少させた他、ゾウ本来の行動であるプール(水辺)に入り水浴びする行動を誘発・増加させることがわかった。(萩原ら、2012. 日本動物園水族館協会第 22 回ゾウ会議, 口頭発表)

・タイヤを用いたことで常同行動である回遊癖が減少したが、その発現を完全には消失させていないため、次に飼育面積を増加させる(300m<sup>2</sup> から 700m<sup>2</sup>)と異常行動は減少するのか?について調査した。面積増加 1 日目には、探索行動が増加し、回遊癖の発現割合が 30%程度減少したが、2 日以降の発現割合は面積増加による変化はみられなかった。野生では年間に広大な面積(資源に乏しい乾季であったとしても移動距離 250~400km<sup>2</sup>)を移動するボルネオゾウにとって、飼育施設の面積増加は行動に大きな変化をもたらさないことがわかった。(萩原ら、2014. 日本動物園水族館協会 第 61 回動物園技術者研究会, 口頭発表 ; 2013 年度京都大学野生動物研究センター共同利用研究計画 2 採択課題)

・次なる目標として、面積増加ではなく限られた飼育面積の中で、給餌方法が採食行動・異常行動におよぼす影響を明らかにするため、給餌方法である『エサ隠し』に関して、飼料であるサトウキビを土に 10 か所埋没し、採食持続時間と飼料獲得率、行動レパートリーおよび異常行動発現時間について調査した。飼料の埋没は、採食時間が埋没前より伸びないものの、採食にかかわる行動レパートリーが 10 から 20 パターンに増加することがわかった。(萩原ら、2014. 日本動物園水族館協会 第 61 回動物園技術者研究会, 口頭発表 ; 2013 年度京都大学野生動物研究センター共同利用研究計画 2 採択課題)

・2014 年には、飼育担当者は野生ゾウの保護活動と野生個体の行動調査のため、ボルネオ島に赴き、野生個体の行動を確認した。

・これまでの研究結果として、給餌方法や遊具(エンリッチメントデバイス)が異常行動減少に効果的であることが明らかとなり、その採食時や物体の操作時には鼻を使った行動が発現するため、ゾウ特有の鼻を使用する行動に特化した調査(科学研究費助成金奨励研究採択課題、領域番号 26924011, 15H00448, 2014 年度京都大学野生動物研究センター共同利用研究計画 2 採択課題)を 2 年間行なっている時に、対象個体の結核発病が確認されたため、結核の治療・完治を最優先に、研究を一時中断した(研究発表として: 萩原ら. 2015. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会, ポスター発表: 萩原ら. 2015. 国際応用動物行動学会 ポスター発表: 萩原ら. 2016. 日本家畜管理学会・応用動物行動学会, ポスター発表)。・治療開始後、複数の投薬(経口投薬および直腸投薬)はもちろんである一方で、結核菌は免疫力低下により活発になることから、タイヤや消防ホースなどの廃材を用いて飼育個体の行動欲求をみだし、ストレス反応を減少させることで免疫力を向上させ(過度なストレスは免疫力低下を引き起こすため)、完治へと導くことも実施する必要があると考え、現在は 20~30 種類程度のフィーダーおよび遊具等の作成・複数同時設置し、毎日行動観察・記録を行い、対応中である。

・なお、上記した研究結果は論文文化に向けて、現在執筆中である。

○広報により広がった市民活動 ※ここでの“市民”とは福山市民だけでなく、来園者および当園を支援して下さる全国の方々をあらわします。・結核闘病前から、ブログでゾウの飼育に関する工夫を広報してきた。・闘病後には、それに加えてツイッターやフェイスブック等で広報を実施し、さらに全ての更新頻度を増加させて実施している。・広報活動により、市民の方々が自発的にボルネオゾウ『ふくちゃん』の支援のため、募金活動の実施、飼料やお手紙等の送付が継続して行われている。・その募金を、フィーダーや遊具の材料費、ジェットヒーターやミストなどの環境整備費などに使用し、冬季でも室内の気温と湿度を、ボルネオ島に出来る限り近づけることが出来るようになった。今後も随時追加し、広報していく予定である。・『ふくちゃん』の反応や環境改善情報などを再度広報し、市民の方々にフィードバックしている。・海外の動物園ほどの大規模なものではないが、募金活動の少ない日本でもこのような良いサイクルが作れたことを嬉しく思うとともに、まだ始まったばかりだとも思っているため、継続・発展させていきたい。

※詳細については HP にてふくちゃん募金のお知らせ [http://www.fukuyamazoo.jp/fukuchan\\_bokin.html](http://www.fukuyamazoo.jp/fukuchan_bokin.html) 飼育員ブログ: [http://www.fukuyamazoo.jp/zoo\\_blog.php?tm=ボルネオゾウ](http://www.fukuyamazoo.jp/zoo_blog.php?tm=ボルネオゾウ) 福山市立動物園フェイスブック: <https://www.facebook.com/福山市立動物園-659084890910574/> ふくちゃん応援隊フェイスブック: <https://www.facebook.com/ふくちゃん応援隊-217713375304554/> ツイッター: <https://twitter.com/FukuyamaZoo> をご覧ください。

○現場だけではなく、組織としての取り組み ・結核の発病まで、当園の 2015 年までのゾウ飼育では、ゾウ担当者は他動物の担当も持っているため、職員が常時ゾウに張り付いていることができなかったが、発病後は常時 1 名が朝から夕方までゾウに張り付いて通常業務をしつつ、遊具等の設置、行動観察・記録を行ない、常同行動の抑制に向けて取り組むことができていた。たった 1 名であるが、されど 1 名であり、人員配置ができていたからこそ、より手厚いケアができていたと思われる。・現場では直接的に目に見える形で、動物たちのための取り組みを行なえるが、それを行なっていくためには、組織として人員配置がなされなければ実行できない。つまり、担当者だけではなく他職員も含めて、組織として、うまく人員配置を行なうことは間接的に動物のためになると思われる。・野生ボルネオゾウのメスは群れを形成し、離合集散性であることが知られている。一方、当園のボルネオゾウはメスであるが単独飼育であるため、社会交渉の相手に乏しい。・先行研究として、飼育担当者の存在および接触は、常同行動の発現を抑制する要因であると言われており、現在は常時 1 名がゾウに張り付き、給餌、遊具の提示、観察、記録を行なうことで、飼育担当者は飼育個体にとって社会交渉の相手となり、社会エンリッチメントになっている可能性がある。なお、特定の 1 名ではなく、ランダムな交代制で、よりゾウに親密な職員が対応している。

●以上、「年次的に行なう SPIDER モデルに沿った取り組みおよびエンリッチメント研究」、「広報により広がった市民活動」、「現場だけではなく、組織としての取り組み」の 3 項目について、箇条書きにて記させていただきます。これらはアニマルウェルフェア思想をもとに、科学的、継続的および組織的に、そして市民への理解と協力をいただきながら、総合的に実行されている取り組みであることから、本年度のエンリッチメント大賞に自薦させていただきます。

●最後に本内容に関して、飼育個体は結核の治療途中であり、本年度の飼育の工夫に関しても科学的な調査途中であることから、申請することを悩んでおりましたが、複数の市民の方々から、強いお声がけいただき、申請することにしました。今後、私は『ふくちゃんが心も体も健康』でいられるように努力するとともに、当園のゾウだけでなく、他動物・他園でも客観的・科学的な評価のもと飼育環境エンリッチメントが行なわれ、動物の視点に立ったアニマルファーストな飼育方法が行なわれることを願います。



タイヤを使用するふくちゃん



ふくちゃんに全国から贈られた寄せ書き



市民の方々の募金活動



担当とコミュニケーションをとりながら給餌  
(透明円筒でエサを吸い出すふくちゃん)



消防ホースをスライドさせてエサを取るふくちゃん

推薦する取り組み	園館名
福山市動物園でのエンリッチメントの取り組み	福山市立動物園

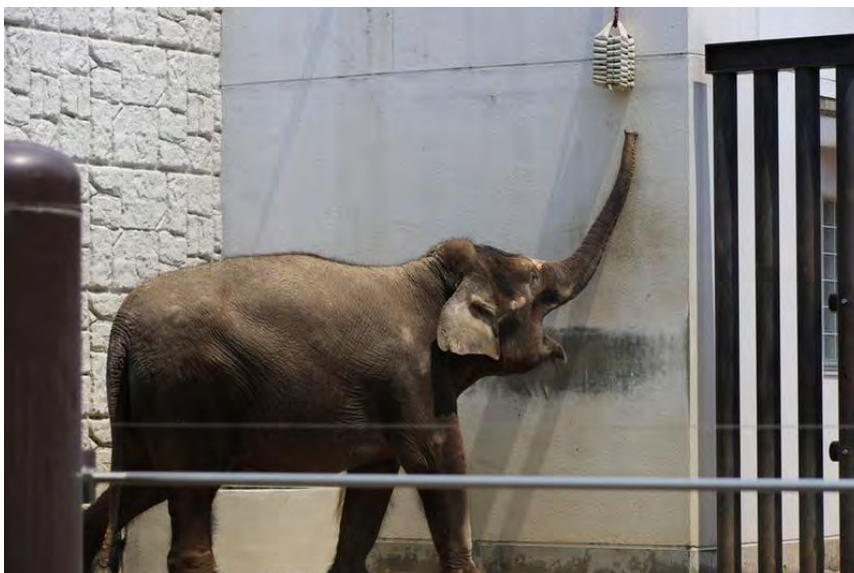
## 推薦理由

こじんまりとした動物園だが、施設・スタッフさんともに動物に対して配慮が行き届いており、非常に好感がもてた。結核治療中のゾウ、ふくちゃんに関しては、動物園からのこまめな発信のおかげで市民が立ち上がり、ふくちゃん応援隊が出来て応援の輪は大阪にも広がった。

この日も入園者の前で治療をされていた。ゾウにとっては辛い治療であると思われるが、しっかり耐え、飼育スタッフ、獣医との信頼関係が強く伝わってきて非常に感動した。

ゾウ舎では消防ホースでのフィーダー、砂山、日除けネットなど、飼育環境をよくしようという取り組みが多く見られ、完治にむけてバックアップされているのがよくわかった。

ゾウ舎以外にもサルゾーンには消防ホースを利用したフィーダー、シマウマに対してのトレーニングなどの様子も見ることができた。また、ケープハイラックスとボタンインコの混合飼育も興味深かった。







## 推薦する取り組み

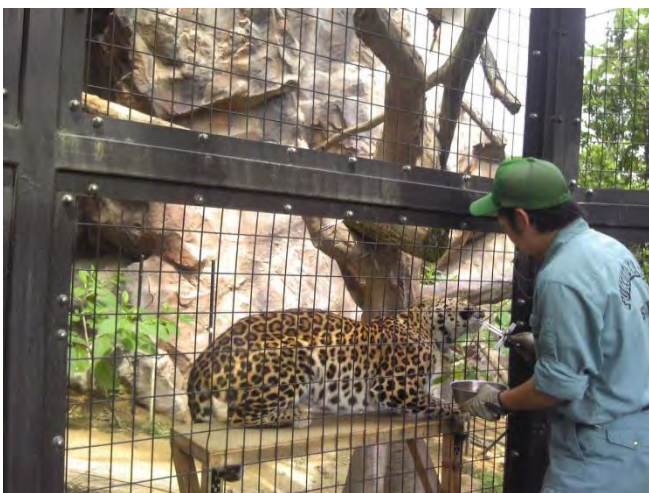
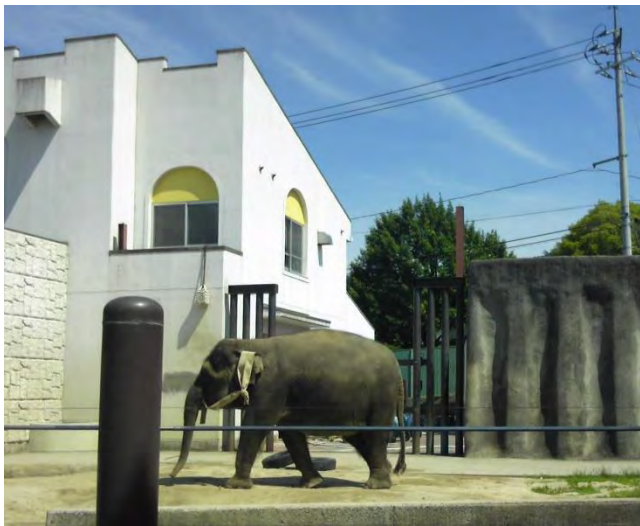
## 園館名

天竺鼠からゾウまで、愛にあふれた動物園を推薦します。

福山市立動物園

## 推薦理由

福山市立動物園にはボルネオゾウのふくちゃんがあります。19歳の雌。昨年、結核にかかり、今も闘病中ですが、元気に頑張っています。飼育員さんを始め園の全職員一丸となりふくちゃんの回復に努力されています。又、ふくちゃんには全国にファンが沢山いて、サポートをしています。ふくちゃん担当の飼育員さんは日々工夫をしています。飽かさせないよう、餌やりに消防ホースを利用したり、高い位置に竹で作った餌やり等、あちらこちらに配置しています。ふくちゃんは消防ホースでできたオモチャもお気に入りです。日本初の結核治療に毎日取り組んでいるふくちゃんと園の皆さんを推薦します。又、他にも猛獣舎内に台を造り、ハズバンドリートレーニングにも挑戦。カピバラと同居のオニオオハシの為の餌やりにも工夫しています。小規模な動物園ですが、どの動物にも愛情たっぷり。有難う溢れる動物園を推薦します。





## 推薦する取り組み

## 園館名

結核治療中のボルネオゾウからフサホロホロチョウまで  
エンリッチメントのレベルアップと来園者との交流

福山市立動物園

私は、福山市立動物園の取り組みを推薦いたします。

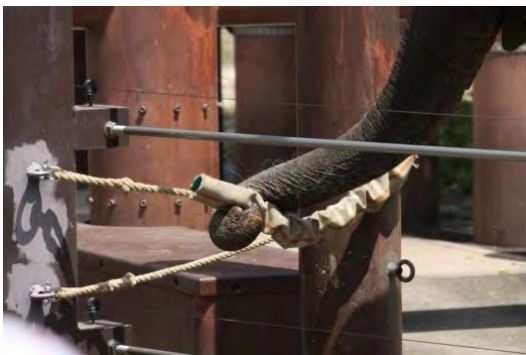
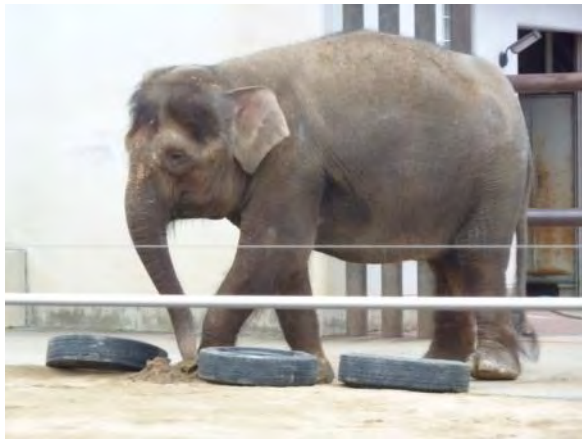
特に推薦したいのは、結核治療中のボルネオゾウに関する取り組みです。2015年の冬から体調不良となり、その後2016年の春に結核と判明したボルネオゾウのふくちゃんのために、園の全職員であらゆることに取り組んでこられました。最初は特に治療法の模索に総力を挙げておられたように思います。あらゆる文献を調べたり、様々な分野の関係者と連絡を取ったり、投薬の方法もできることはすべて試してみようという涙ぐましい努力が続けられてきました。治療法や薬の与え方については現在も努力と挑戦が続いていますし、現在は治療だけでなく、心身ともに豊かに暮らしてもらうことで免疫力も上げてもらうべく、様々なエンリッチメントに取り組んでおられます。餌やりの工夫は、竹筒の利用、消防ホースをあらゆる形に加工し間にオヤツをしのばせて与え、またアクリルの筒のようなものにオヤツを入れて片側を飼育員さんが持って、ふくちゃんがそれを吸い出すという遊びなど。日常の遊び道具としてはタイヤを複数与え、時には円柱に通してみたりと与え方も工夫。消防ホースはオヤツが入っていないものでもふくちゃんのお気に入り、頭や耳にかけたり、身体を自分で叩いてみたりと、自身で遊び方を考えることで楽しい時間を過ごしているようです。遊び道具は治療前に自分で片付ける(飼育員さんに返す)というルーティーンができていることも、楽しい遊びから自然に治療へと移行することでふくちゃんにかかるストレスを減らしています。また、療養中ということで午前中や天候の悪い日は室内で過ごすふくちゃんのために、室内でのエンリッチメントの工夫もされていることは、ブログやFacebookで発信されています。さらに、結核が判明してから、検査のためにトランクウォッシュのトレーニングを行い今ではできるようになっていることも、素晴らしい成果だと思います。

これらの積極的なエンリッチメントやハズバンドリートレーニングを後押ししているのが、ツイッター、Facebook、ブログを通じた情報発信だと思います。頻りに園を訪れることができないファンに向けてもしっかりと継続的に情報発信することで、ファンや来園者の理解を得て、結核治療中のふくちゃんへの応援が広がっています。来園者の応援という点では、ふくちゃん募金の創設はとても大きな意義があったと考えます。園からではなく、ファンの呼びかけにより、それに園の特に事務職員の方々のご尽力があって、ふくちゃん募金が創設されました。これは、職員の方々のふくちゃんを本当に大事に思う気持ちと行動が、来園者を動かしたのだと思います。このことにより、さらにふくちゃんへの理解が高まり、ふくちゃんへの応援の輪が広がり、寄付金を利用して療養中のふくちゃんの快適な暮らしのための設備の購入に繋がりました。来園者とともにエンリッチメントを実現できていると考えます。ふくちゃんへの応援が県外にも大きく広がり、遠方から応援に訪れる来園者も増えているように思います。遠方からの来園者に対して、特に園長や事務職員の方々の対応はとても素晴らしいと感じています。園長はよく園内を回られ来園者によく話しかけられております。初めて訪れる方などは事務職員の方が対応されることも多いですが、とても感じが良いとの感想をよく耳にします。そのような園全体での、ふくちゃんをはじめとする動物たち、来園者に対する誠実な姿勢や気持ちが、エンリッチメントの底上げに必ず繋がっていると確信しています。

また、ふくちゃんに対するエンリッチメントの取り組みが、他の動物たちにもどんどん広がり、園全体でエンリッチメントを競い合うように行われていることも素晴らしいと感じています。今年に入って特に、様々な動物に対するエンリッチメントやハズバンドリートレーニングが積極的に行われています。すべてを挙げることはできませんが、例えば私が印象に残ったのはフサホロホロチョウの止まり木と砂場の設置です。このエンリッチメントとそれをブログやツイッターで発信してくれたおかげで、フサホロホロチョウが夜は木に止まって寝ることを知りました。また、気に入って活用してくれるエンリッチメントを行うことが比較的難しいサルたちに対しても、あの手この手で様々なエンリッチメントに挑戦しているところにも可能性を感じています。構造的に決して新しくはないサル舎で、可能な限り空間を利用して個々に最適なエンリッチメントを試しています。例えばテナガザル舎では、消防ホースのハンモック、吊り輪、ウンテイ、ジャングルジムなど。その他にも、キリンシマウマ、大型ネコ科、ポニー、キバタンなど様々な動物に対するハズバンドリートレーニング、ミニブタの散歩、アカハナグマの遊具、小動物と鳥類の共生など、園全体でエンリッチメントやハズバンドリートレーニングの底上げが行われているように思います。また、それを来園者にも一緒に盛り上がり、学び、応援してもらえるように、ブログやSNSを活用して、たくさんの共感を得ているところも、これからのますますの伸びが期待できる場所かと思えます。

## 推薦理由

国内で初めての結核治療となったボルネオゾウのふくちゃんに対し、ただ治療を行うだけでなく、それを一般の方々にも広く知らせ、さらにエンリッチメントも健康回復への道の一つであることに理解と応援を得ながら、他の動物たちに対してもその意識と行動を広げている福山市立動物園を、エンリッチメント大賞に強く推薦いたします。よろしくお願いいたします。



## 推薦する取り組み

## 園館名

結核闘病中のボルネオゾウ「ふくちゃん」の回復に向けて

福山市立動物園

現在日本唯一のボルネオゾウ「ふくちゃん」がいます。

ふくちゃんは結核の治療をおこなっており、同園は飼育員さん、獣医さん、スタッフさんすべてが一丸となりふくちゃんの回復に努めております。

また他の動物においても、エンリッチメントを行うようになり、今後福山市立動物園さんの取り組みを応援したいと思えました。

2016年2月、私が日本で一番大好きな福山市立動物園の日本で唯一飼育されているボルネオゾウの女の子「ふくちゃん」体調不良が伝えられました。そしてその原因が「結核」という病気によるもの、他の動物状況確認のため1週間ほど休園するというまさかの事態が起こりました。容態も一進一退で、一時は非常に危険な状態にあったこと、調子が上向きになってきたこと等が同園のブログで紹介されるたびに一喜一憂する日々でした。

最近では体重も戻り、比較的安定した日々を送っていますが、まだまだ油断は禁物の状態です。2017年6月15日の「ふくちゃん応援隊」FBページによると、ふくちゃんは午前中だけでもカプセル180個分の薬を特製の糖蜜団子に仕込み服用しています。また午後は別の薬3剤を直腸から直接投与されています。薬の服用・副作用により、尿が赤くなったり、ぼーっとする時間もあつたりと結核の治療には副作用と戦いながら長期間にわたる治療が必要となります。

繊細なゾウにとってこれらの治療は非常に負荷がかかるものです。

そのため、同園の飼育員さん・獣医さんの方々は、ふくちゃんのストレスがこれ以上高くないようにすること、気持ちよく治療を受けてもらえるような様々な手法・工夫でふくちゃんに対応してくださっています。

福山市立動物園のブログ・ふくちゃん応援隊FB等にもいろいろなエンリッチメントのための道具が登場しておりますが、実際に自分のこの目で見たものを中心に写真とともにそのアイテムを紹介したいと思えます。

### 1. タイヤ(写真①)

ふくちゃんが一番好きな遊び道具と思われる。  
タイヤは使用後ちゃんとふくちゃんがお片づけをします。

現在同園ではふくちゃんの安全性を考え「ワイヤーなし」のタイヤを使用しています。当初1本のみを渡していたそうですが、最近は複数本(私が見たのは3本まで)を渡していることの方が多いようです。使い方は様々です。

<実際に見たもの>

- ・バラバラのタイヤをまとめてお腹の下に敷き潰す
- ・鼻で数本まとめて持ち上げる
- ・プールに持って行き沈めて浮かび上がるのを楽しむ
- ・タイヤを立てて転がす

<園で実施していること>

- ・複数本のタイヤを鉄柱に刺し(輪投げのような状態)、一番下のタイヤにのみ落花生等のおやつを入れておく。おやつは他のタイヤを鉄柱から外さなくては取れないため、ふくちゃんは一生懸命鼻と頭を使って上まで持ち上げて外そうとする。
- ・消防ホースで2段につないだタイヤを懐に抱え込む

そのときのふくちゃんの顔は、ちょっとイタズラっぽい顔をしたり、ニコニコしたりと心から楽しんでいる様子が見えます。

## 2. 消防用ホース(写真②・③)

こちらは飼育員さんお手製のアイテムが多数あります。

### <実際に見たもの>

- ・おやつ入りのホースをボルトで固定、しごいたりして外に出して食べる
- ・ホースの切れ端をくわえて振り回す
- ・四角に編みこまれた(ダイス状)ホースをキックする
- ・ホースにロープを通し、ホースとロープの間に落下生等を入れる  
(スライドさせて動かし、おやつを食べる)

### <園で実施していること>

- ・長めに編みこんだおやつ入りホースを、鼻を伸ばして届くか届かない高さで獣舎から吊るす
  - ・2本のホースを編みこみ隙間に落花生・黒糖をはさむ  
(これはとりにくかったようで、壁ではさみ無理やり押しつぶして出してしまったそうです)
  - ・ホースをネット状にし、中にサッカーボールを入れる

ホースのアイテムは、慣れると得意げなお顔ですが、慣れるまでは少しむきになるようなお顔です。でもそこがまたかわいいのです。(笑)

## 3. 透明な筒(写真④)

飼育員さんが、筒におよつちの落花生等を入れ、高さや角度を変えてふくちゃんの鼻に近づけます。ふくちゃんはそのを吸引し、おやつを食べます。

おやつをゲットしニコニコ顔になるふくちゃんに、横で一緒にみていた親子連れのお子さんが「おいしそうに食べてるね」とお母さんに笑顔で話しかけている様子を見て、微笑ましくなりました。

## 4. その他アイテム

・砂: 砂浴びをしたり、寝転がったり、時には多めの砂の搬入があり、ふくちゃんはテンションが上がり、夢中になって遊ぶようです。

・竹筒: おやつ入りの竹筒を振る、割る。  
笹つきの竹を渡すと、笹だけをもぎとり、残った竹筒を頭に寄せたりして遊ぶ

・ごはん: ごはんとして給餌されたサトウキビを孫の手代わり使って背中を搔く  
オーツ麦や乾牧草を少し穴を開けたネットに入れる。  
市販ではなく、飼育員さんお手製のポップコーン(鼻使いの器用さがわかる)

以上のものの中には、他園でやっていることを参考にして、福山市立動物園なりにアレンジしたりもしています。(他園: ホノルル動物園や東山動物園)

現在はふくちゃんの回復を最優先にされている毎日かと思えます。

ふくちゃんがストレスを感じるようであれば薬を飲むこともやめてしまい、結核という敵に立ち向かうこともできなくなってしまう可能性もあります。そのため福山市立動物園さんは、園をあげてふくちゃんのためにストレスを無くし気持ちよく治療を受けてもらえるよう大変な努力されています。その一生懸命さは私たちにも伝わってきています。また

それを園のブログやFacebook・Twitter等で発信することにより、たくさんの方々の共感を得ることができ、遠方から福山市立動物園さんを訪問される方も増えてきているようです。そんな私も一員としてこれからもこの園を応援していきたいと思えます。

また最近はおくちゃんだけではなく、他の動物たちへもエンリッチメントをおこなっています。

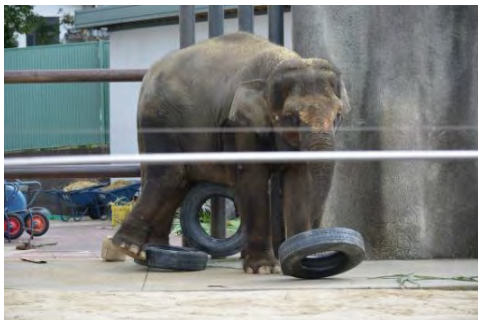
- ・エリマキキツネザル、ブラッザモンキー、テナガザル舎にロープを設置
- ・キバタンのトレーニング
- ・アミメキリンのターゲットトレーニング
- ・ライオンの誘導訓練 等々

推薦理由  
今は福山市立動物園さんから目を離すことができません。同園の取り組みをたくさんの方々に知ってもらいたく応募いたしました。

また私も福山市立動物園さんに行きたいと思っています。きっとまた「こんなことも始めたんだ」という楽しみを見つけに行きたいと思えます。少し不便な場所ですが。。

おくちゃんがいつでも笑顔でいられますように。(写真⑤)  
おくちゃんの完治を祈るばかりです。

① タイヤ複数持ち



② 消防ホースアイテム数々



③ フィーダー



④ 透明な筒



⑤ おくちゃんの笑顔



## 推薦する取り組み

## 園館名

ボルネオゾウのふくちゃんとシロテナガザルのマリさん

福山市立動物園

## 推薦理由

福山市立動物園は、日本で唯一のボルネオゾウのふくちゃんを飼育している。

以前から週末には、ゾウの餌やり体験で集めた資金を故郷のボルネオの森再生に役立てたり、普段の餌やりやゾウの足や肌の手入れを説明しながら見せてくれた。

そんな中、ふくちゃんの結核が発覚、一時は命が危なかったようだが、飼育スタッフ始め、スタッフが一丸となり、試行錯誤の取り組みが功を差し一命をとりとめた。そんなスタッフの努力を知ったファンが、ふくちゃんを応援する応援団を結成。日本全国のファンが、完治を願い応援している。日本全国でこんなに愛されている動物園はなかなかないと思う。

園スタッフが、大変な毎日でも、以前と変わらず、ボルネオゾウの素晴らしさを子どもにも大人にもわかりやすく伝える努力を惜しまず、頑張っている努力にも感動する。

また、いつ訪れても、動物たちの居住空間が快適に保たれ、スタッフが明るく来園者に挨拶している姿勢は、素晴らしい。

高齢のシロテナガザルのマリさんを敬老の日に合わせて、運動場に出したり、キリンの繁殖に取り組んだり、小さなことからコツコツと日々の地道な愛あふれる取り組みが満載の動物園をぜひ、推薦したい。





推薦する取り組み	園館名
広島県の福山市立動物園を『市長・園長・飼育員および職員が一丸となって動物園を盛り上げる』	福山市立動物園

国内唯一のボルネオゾウ ふくちゃんの結核闘病がひとつのきっかけとなったように思います。

園にとっては一大事ですが、ふくちゃんのその日の体調、治療内容にはじまり、トレーニング、エンリッチメント等々、様々な情報発信をすることで、多くの動物園ファンの心をつかみ、応援へつながりました。

現場では、健康管理のためのトレーニングや動物の特性を活かした餌場の工夫、フィーダーなどアニマルライフファーストを実施しています。ふくちゃんの治療のためスタッフがかかりっきりでデータ取得にあたる中、市長・園長他飼育員、そして広報スタッフがタイムリーな情報発信に各々の目線で加わり、それぞれの立場で活躍することで、動物や動物園への親しみ、興味、理解を深めた功績は大きいと思います。

アニマルライフファーストの取り組みとして

- ① QOL の向上(エンリッチメントなど)
- ② トレーニング(健康管理)
- ③ 掲示の多さ(動物や動物園に対する理解・興味を発掘)
- ④ 情報発信の多さ(動物への興味・個体に対する親しみ)

#### ① QOL の向上

エンリッチメントについては、他の方がきっと推薦されていると思いますので、ここでは省略。

#### ② トレーニング

キリン・シマウマ・ライオン・アムールヒョウ・キバタンなど。動物の将来を考えて、ゴールを設定したうえでのトレーニング。運悪く、私は現地で出くわしていませんが、園の twitter、ブログ、および他来園者の twitter にて動画を拝見しました。

#### ③ 掲示の多さ

福山市立動物園の代名詞と言ってもいいほど、その種類は豊富で、方言を使うなどインパクト大。わかりやすく、親しみやすいものばかりで斬新です。毎回、訪問時にはどんな新しい掲示ができているかワクワクします。

【動物が運動場にはいない理由。これがあるとならぬ雲泥の差！参考画像1】

【なぜ動物に勝手にえさを与えてはいけないのか。これは非常に理解しやすい。参考画像2】

【とても気に入っている掲示。動物園でのマナーについて。ステキです！参考画像3】

【オニオオハシのエンリッチメントについての掲示。何もなければただ見て通りすぎたはず。参考画像4】

【これを見ると俄然やる気がでます！探す楽しみ・動物の習性を考えることができます。参考画像5】

ふくちゃんの病状発表後、医療費もかさみ、治療が長期にわたることをうけて、仲間たちで寄付を募ろうと動きました。が、公立の動物園では、基本的に市の観光課などが窓口となり受け取るケースが多く、用途があやふやになりがちです。集まった善意の送金先もままならないとき、その問題を解決すべく、園長をはじめ園の事務方スタッフも尽力くださったと聞いています。おかげで“ふくちゃん募金”がたちあがり、容易に振込みできるようになりました。

## ④ 情報発信

園の公式ホームページ、ブログ、そして twitter(@fukuyamaZoo)でのつぶやき、facebook では「ふくちゃん応援隊」などさまざまな SNS を利用して、情報を発信しています。

公式 twitter では、時に(園長ツイート)があり、秀逸！です。動物たちの素顔を捉えているもの、手術の様子など裏側の出来事、そして園長ご自身の興味のある動物など多岐にわたっています。そのため園長は園内を歩かれることが多く、園のスタッフの間では、「また園長の常同行動が始まった。」と言われているそうです。

(Ex. ゾウ、トランクウォッシュ ライオン、歯治療 アナグマ、ハンモック利用の様子 シロテナガザル、寝室への通路新設など)

Facebook における「ふくちゃん応援隊」は、闘病が続くふくちゃんをみんなで応援しようと、福山市長、福山市議会議員、そして福山市商工会議所会頭が発起人となって立ち上げられました。

ふくちゃんの様子が細かに綴られ、応援している私たちにとって貴重な情報源になっています。

(Ex. ゾウ、投薬だんごの作り方 お誕生日会の様子 ふくちゃん目線で語られる“今日”など)

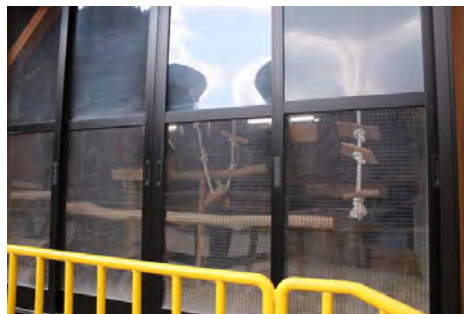
ふくちゃんの病状発表後、医療費もかさみ、治療が長期にわたることをうけて、仲間たちで寄付を募ろうと動きました。が、公立の動物園では、基本的に市の観光課などが窓口となり受け取るケースが多く、用途があやふやになりがちです。集まった善意の送金先もままならないとき、その問題を解決すべく、園長をはじめ園の事務方スタッフも尽力くださったと聞いています。おかげで“ふくちゃん募金”がたちあがり、容易に振込みできるようになりました。

園を盛り上げる活動のおかげで、園の雰囲気がとても温かく感じられます。交通の便が良くない場所にありながら、多くの方が足を運ばれ、行って良かった、幸せになれたと口々に言われています。

ああ、いいなあ。と思える光景に出合うたびに、益々応援しようと力が入ります。

こういったところから、動物園に対する市民の理解が深まり、ひいてはそれが動物愛へとつながっていくと信じています。

推薦理由



## 推薦する取り組み

## 園館名

ボルネオゾウの治療と園全体でのエンリッチメント

福山市立動物園

## 推薦理由

動物園からの発信でボルネオゾウの支援が広まり市民だけでなく全国から寄付が寄せられている  
 ストレスを減らすための工夫がたいへん多く取り入れられている  
 治療費だけでなくフィーダー、遊具、ヒーター、ミストなどを寄付から購入  
 専任の担当者が常時一名配置され観察、調査などしている  
 これらによりふくちゃんの表情が今までとは違い、とても良くなっていると感じました。  
 たいくつしないよう 消防ホース タイヤ など手配されていました

- ・その他に園内にはいろんな種類が混合飼育されている施設があり  
 どれもが工夫されていて、それぞれの動物が刺激になってたいくつせず暮らしてる
- ・ホロホロに足の負担を少なくする取り組み、地面でも樹上でも好きな時に好きな場所にいられる
- ・採血のトレーニング

